

会 議 結 果

会 議 名 (審議会等)	令和7年度 高砂市子ども・子育て・若者会議 第1回若者部会
開催日時	令和7年 4 月 21 日 18時00分から19時50分
場 所	高砂市役所 南庁舎5階 大会議室
会議公表	☒ 公 開(傍聴者定員数:3人)(傍聴者数:0人) ☐ 非公開
事務局 (担当課)	政策部シティプロモーション室(TEL 079-441-9904)
議 題	(1)第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プランについて (2)若者未来会議の開催について
出席委員	委員 6 名(欠席 1 名)
結 果 (議事録又は議事概要)	
発 言 者	内 容
	開会 資料確認、部長挨拶、出席者紹介 議題 (1) 第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プランについて 【事務局から、第2期子ども・子育て・若者支援プラン、資料1に基づいて説明】 委員 92 ページのひきこもり等に関する支援の推進について、高砂市の現状がどうなのか詳しくわからないが、多くの若者たちが、人生の中でつまずきがあったり、うまくいかなかった経験があったりで、ひきこもりになってしまっている方をどう支援していくかということ、ひきこもり予備軍という言い方はよくないかもしれませんが、ひきこもりにならないような何か施策や取り組みについて、どういうことが効果的なのかというところを考えていただきたいなと思います。 事務局 高砂市でも若者に対して、アンケート調査を行いまして、60 ページに現状の課題のまとめと方向性で、(7)の一行目をお願いします。 高砂市で引きこもり傾向にある人の割合が 5.1%で、前年度に同じ項目で調べた全国調査が約 2%でした。 高砂市は、引きこもり傾向にある子が多いというのは、調査からわかっていると

委員	ころです。 19 ページです。不登校が年々増えていて、この後、委員がおっしゃっていた予備軍になってしまうのかと。そこは課題となります。 110201 伝わる情報発信というところで、どんなことをされる予定なのか教えていただきたいです。 二つ目に、たかさごナビの情報発信について、具体的な情報発信をすることはすごく大事だと思っていますが、ただ単に発信をしていくだけでなく、例えばアプリ稼働率や、どの機能が一番使われているか、そういうところを一度分析して、方針を立てた方がいいと思います。 3 点目、11303 パブリックコメントについて、今年度も昨年度に続いて、大人向けはもちろん、子どもたち、特に小学生向けと中学生向けを、文言や細かい点にも注意をしながら、実施してほしいと思います。またできる限り余裕を持って実施すると、回答率も少し上がると思います。
事務局	伝わる情報発信について、具体的に市で持ってる情報発信ツールで一番網羅しているのがホームページ、その次に、広く知られているのが、広報たかさごという紙媒体。それから SNS の Facebook と Instagram と LINE、その3つで情報を発信しています。 たかさごナビはこどもの予防接種など特化したような形で始まっています。あと、記者への情報発信、プレスリリースを使った情報発信、チラシのような紙媒体などが情報発信手段としてあります。情報が必要な人に届かないといけませんし、共感を持っていただきたいので、それぞれ手段に応じた情報発信をやっていかなければならないという方針です。 たかさごナビは、どんな分析ができるか担当部署に確認して、情報発信のやり方でどういうところに課題があるのかを意識してやっていきます。 パブリックコメントは、こどもが対象となっているような施策や計画に対して、こども用のパブリックコメントを導入するという市の考え方になっています。今年度も配慮しながらパブリックコメントを実施していきます。
委員	ホームページや広報、SNS は、年代によって見る媒体が違う、きっと若い人も関心が強くないと難しいと思っています。 市の SNS は、市がやってるから安心して、正しい情報だとわかるからこそ、聞きやすい工夫が必要で、市役所は、どこに何を聞いていいかわからない、相談しにくい、話しかけにくいと感ずるので、それなら質問コーナーのようなことができる媒体で、ひきこもりや子どもたちでも書き込めるなど、オンラインの仕組みを

	上手に使うべきと思います。 80 ページの若者が自分らしくするための支援がたくさんあっても、担当課もばらばらで相談しにくいと思う。インターネットの情報だけでは不安な人とか、一歩踏み出せるようなサポートとして、こういう相談は私が受けますよと SNS に出るとか、安心した情報をもらえる人がここにいるよっていうのがあれば、行きにくさがなくなるし、そこから関係各所につなぐきっかけになる。SNS の DM とかも使っているのかなとも思うし、やりたいことがある人にも、こういうところに繋がりますよっていうのがあれば、もっと高砂市が活性化すると思いました。
部会長	市がやっている SNS の運用はすごく大事なことで、行政という立場、安心ですよっていう場所だと思う。情報発信だけでなく、必要な人にはこういう支援を準備していますと言う場所だと思いますが、それをアクセスするのに、ハードルやイメージなど今言われたところは指摘どおりと思う。SNS、オンラインを使うと、ワンストップの質問コーナーのような、わからないことはここに行ったら、その他関係のところに繋いでくれたり、たらいまわしにせずに終わるようなものが、可能になると思います。
委員	吹田市では、吹田フェスタというのをされていて、その広報の一環だと思うんですが、市の職員 1 人がインフルエンサーとして、いろんなことをされていて、今フォローは 1500 人ぐらい。最近始まったみたいなんですけど、発信という意味ではこういうのも一つですし、さっき言われたような相談窓口は、わざわざ設けなくても SNS、LINE とかでいいと思います。目安箱みたいなイメージで、ホームから送ってもらえれば、市のところに届くというのもいいなと思います。 私が曽根地域交流センターに行ったとき、コミュニティスペースで、どんな方が使っているか観察してみると、小学校低学年が昼過ぎの時間帯に多くて、時間が 30 分経つと高学年が来て勉強を始めたり。そのときにその子たちに、ヒアリングをしたいと思います。マイクロマネジメントにはなってきますが、利用者の生きた意見を聴いたほうがいい、パブリックコメントのような期間が決められているものではなく、箱を置いたりして、簡単な意見でいいと思うので、常に行政側が取り込める姿勢っていうのを整えるとよくなると思いましたし、最終的に伝わる情報発信につながると思いました。
部会長	今利用している、少数意見を受け取ることはすごく大事だと思います。小さい意見かもしれないけど、それを聞いて、改善するという姿勢になりますね。
委員	改善したら大きくポスターなどを貼ったりして、ちゃんと反映されましたというの

	がわかれば、こどもたちは嬉しいと思うので、そこはすべきと思います。
委員	何か意見を言っても反映されてるかわからないから、言ってもしょうがないとなってしまう。前回若者未来会議に来てくれた人たちは、たくさん意見を言ってくれたが、結局市長に伝えて終わっているから、その後何が反映されたとかがすごくわかりづらい。難しいかもしれないが、若者未来会議で意見が出たから反映しましたというのが見てわからないと。
部会長	自分の希望通りではないかもしれないが、変わるということが大事ですね。
委員	そういう意味では 80 ページの「若者チャレンジ支援窓口の検討」というのは、いい窓口になると思います。例えば、実際に活動をしたいと思っている人を支援して、一度実例を作って、それをもとに積極的に広報して、もっと私こんなことやってみたいという人に繋げていくことができればすごくいい循環がつかれると思います。
部会長	この若者チャレンジ支援窓口は、どのようなイメージなんでしょうか。
事務局	地域で何か関心のあること、やってみたいという若者の方に、まず事前にオンライン申請をしてもらいます。それをもとに、庁内の担当部署を確認して、内容を精査しまして、後日また希望する日に来ていただいて相談を受けて、担当部署に繋いでいくという形で考えています。
委員	若者チャレンジ支援窓口の検討というところで、個人ごとですが、高砂町のコーヒ一屋に行った際、地域の方々が結構来られてて、話を聞いていると、マルシェなどいろんな取り組みをされていて、今度は寺子屋のようなことができないかと話している。そんなアイデアというのは結構あって、実際にできるところから動いていってるんですね。 ところが行政は行政として、こういう取り組みをしているのが、なかなかそこは繋がっていない、相談するのが面倒くさい、自分たちで進んでいった方が自由にできて早いし、でも行政の補助とかもあればいいなとかも話している。 草の根でやっている進め方と、行政のバックアップみたいなものが合わさると、もっと規模が大きいというか、より形になるのかなと思ったりします。
部会長	おそらく支援する部署もありますよね。 一緒になってやらないと、今言われたような、時間がかかるし自由にやれないか

	らってということだと、きっとそれはすごくもったいないことです。
委員	若者のことに限らず、そういうワンストップでの支援というのは高砂市の中でありますか。
部会長	子育てなら、ここへかけたらとりあえずいいとか、それがたかさごナビではないんですか。
事務局	どこが担当かを探します。なので、ワンストップかと言うと違うかもしれません。
委員	ひきこもりの人などは訪ねるということはすごくハードルが高いので、オンラインというような形で軽く相談して、とりあえずそこで話ができる。いろんな話をするなかで、実際に繋げていくといいと思います。 うちの大学でも、とにかく困ったことがあったら Q ルームというところへ行けば、話を聞いてもらえるところがあり、今相談でも対応しきれないぐらい学生さんが利用していて、間口の広い、わからなかったらここへ行くという、使いやすさみたいなのが特に若い方には必要なのかなと思ったりします。
委員	81 ページの 33201「地元企業合同就職面接&説明会の実施」について、企業の生の声を聞くことが多くあり、企業の困りごとが、人がいないこと。 お客さんや若者、就職を探してる方の親などは、地元就職して欲しいという地元回帰の意識も高く、地元で探す人が多いのに、地元企業はなかなか人がいないということで、上手く出会えていないと日々思ってるので、就職面接相談会というのは、非常にいい結果が出ると思いますし、市外転出に歯止めをかける即効性は一番あるんじゃないかなと思います。 これが新規の取り組みということは、今までは行政としては、あまり実施しているケースはなかったのでしょうか。
事務局	前回の計画を立てたときにはなかった事業で、何年か前からやっています。
委員	労働力が圧倒的に不足している中で、こういう取り組み、行政もそうですし、今高砂商工会議所でもそういう雇用創出の動きをやっているんで、連携して、高砂には優良企業さんが結構多いので、地元で就職したい人とマッチングができれば、地元に残ってもらえると、人口減少を抑えられるのではないかと思います。
部会長	そのページの 33203 の高砂商工会議所にワンストップを独自に設置するとい

委員	うのは動きつつあるんでしょうか。 詳しくは担当に聞かないとわからないが、創業支援というくくりでやっていると思います。 コロナ以降、若い方が創業されるケース、相談される件数も非常に増えてきていて、創業しやすいように国も支援してる中で、商工会議所内に、ワンストップ窓口というのをしようとしています。 創業する方は、「こういうことをしたい」という想いが先行しているが、金融機関や会議所では、創業する限りは、ある程度成功して欲しいと思っています。ある程度続けてもらうには、その計画段階から適切に関わっていくのが、成功率がアップすると思っていますので、そういう窓口が必要になってくると思います。
委員	地元企業の名前はいろいろ知っているが、何をしている会社なのかは知らない人が多いと思います。合同就職相談会をすることは、すごく大事だと思うが、それに行くまでに、チラシなどで高砂市にある企業はどんなことをしてる企業があるのかを、概要だけでいいから教えて欲しい。その中で気になる企業があれば、次こういう会があるからそこに行って話を聞いてみようと思う。相談会を開くから来てくださいではなくて、その一手手前に何かいると思いました。
委員	75 ページの「社会教育関係団体の活動支援」に関して、社会教育関係団体が何を指すものかっていうのは、いろいろあると思うんですけども、基本的には、ボランティア団体のような団体と思って把握しています。 それに関して、子育てサークルなどももちろん、若者同士、若者がやっているボランティア団体や、市内だけでなく市外でも活動されてるところもたくさんあると思うので、青少年の交流というところで、若者が若者でやっている団体を連れてきて、高砂市の若者と交流をしてもらうような機会を、たくさん設けていただきたいなと思います。 80 ページの、331011「職業教育・キャリア教育の充実」に関しては、トライやる・ウィークに関して、キャリアパスポートをぜひ活用していただきたいと思うのと同時に、トライやる・ウィークは私立中学校の子たちが参加できないので、ぜひ希望者がいたら、積極的に受け入れてあげて欲しいなと思います。 85 ページの「総合防災訓練」についてです。各防災関係機関と消防団をはじめとする自治会、地域住民が連携することってというのはすごく大事だと私も認識しております。その上で最近、自主防災組織という、地域の方々が自主的にやっている防災組織の、所属人数がすごく減ってて、かつ高齢化しているのが全国的な課題になっています。

	なので、防災訓練の場を通じて、こどもたちに体験してもらうだけでなく、自治会、自主防災組織、若者、ファミリー層、いろいろバックグラウンドを持った人たちが来ると思うので、行政がかけ橋になってつないで欲しい、全部受け身ではなくて企画に関わるなど、積極的にやっていただきたいなと思います。
委員	若者はどこに声をかけたらいいかわからないのでは。 仕事で参加して外国人を連れて行ってたことがあるが、それも外国人を連れて行くためという目的があって、危機管理としても、外国の人にも優しい日本語でアナウンスするという訓練になると思います。 若者世代、18 歳から 39 歳の人にどう情報を伝えるか、どう声をかけるかは、そういう積極的な団体がいないと難しいと思う。この訓練は、この年代の人にやって欲しいというような募集を事前にやらないと、簡単に若者に届かないと思うし、1 年に 1 回の機会をもうちょっと活かすには、どう声掛けするか、もっと届く方法がないかを考える必要があると思いました。
委員	85 ページの「若者の選挙への参画」について、具体的に増やすためにどんなことを行っているのですか。
事務局	高校生と一緒に啓発活動したり、選挙の立会人を若い方にお願いしたりしています。
委員	私は、高砂市が好きっていう気持ちがあるから、何か高砂市に貢献したい、何か少しでも関わりたいと思って、選挙に行きたいと思いました。 私が小学生のときは、地域のこども会にほとんどの人が入っていて、祭りなどの地域活動に参加していましたが、今は入っていない子が結構普通になっていると感じています。こども会に入ってるからこそ、自分より学年の下の人や、年配の方などに関わる機会があったが、その機会がないから地域に興味を持たない子が増えてしまうんじゃないかというのがあります。参加するのにも、その保護者の方に負担があったり、保護者が忙しいからという理由で入るのをやめてとなくなってしまっているなと思います。
事務局	地域との関わりでいうと、75 ページ、子ども食堂を行っています。子ども食堂を支えていくためにも、今年度から予算をおき、コーディネーターを始めて、サポートしていこうとしているので、こういう運営を掘り下げていくというのは、大事なことと思います。

委員	はたちのつどいの運営についてですが、対象者というのは、生徒会長の人たちが毎年やっているイメージなんですけど、どうですか。
事務局	毎年、公募で募集は出していて、公募で来なかった場合に各学校にお願いして、生徒会長などを紹介いただいています。
部会長	子ども食堂みたいな、新しい取り組みというのが出てきてるんじゃないかなあと思います。それが地域の活動活性化、地域で何かしたいにも繋がるのかなと思います。ですので、こども食堂で単に食事を作るだけでなく、食料の支援だとかその場を提供したいと思ってる立場で参加する人たちがいたり、そこで何か悩みを聞いたりとか、或いは遊んだりとか、学習支援につなげたりだとか、それを誰か引っ張ってきて、広い枠組みになってるので、何か貢献したい、何かしたいと思っている若い人たちも一緒にできるものがあつたらいいと思いますね。 議題 (2) 若者未来会議の開催について 【事務局から、資料2、資料3に基づいて説明】
委員	このフリースペースは誰でも使えると思いますが、喋ってもいいのですか。
事務局	地域交流センターでは大丈夫ですが、図書館については喋れません。
委員	喋れないということは、1人で本を読んだり、勉強したりという、特化された使い方になるということですか。
事務局	図書館はそうなります。
部会長	若者未来会議というのを媒介にしながらも会議じゃなくて、きっかけとして、例えば、毎月ではなくて、季節ごとや、今イベントが何もない時期などに、次のイベントがあるから、それについて緩やかにちょっと相談しながら、堅苦しくない、誰でも参加できて1回きりでもいいようなことをやってもいいんじゃないかと思いますね。
事務局	若者同士が集まる場ということですよ。例えばこの部会で、そういうのをやりたいということで委員に参加していただいて、1年2回ぐらいで、一緒に話そう

	みたいな会を運営していただくようなイメージですか。
部会長	はいそうです。
事務局	議題 (3) その他 次回の部会ですが、先ほど多岐にわたる意見をいただいたなかで、おそらく8個ほどのテーマに分かれてるという感じがあります。その中で、4個ほどのテーマで、掘り下げてお話できればと思いますが、今出た意見では、ひきこもり、情報発信や伝え方、市役所に質問しやすい仕掛けづくりをどうするか、働くところにつなげていくような市の仕事をどんなことがいいのか、防災のこと、キャリア教育的なもの、子ども食堂や社会教育関係団体などの活動、地域での活動に参加したいお話をいただいたところです。 事務局におまかせであれば、いくつか選んで、次回の部会で担当者も来るような形で、改善点やアドバイスをしてもらえたらと思っています。
委員	情報発信や就職の部分は、話がいろんな方向から出たと思うので、ピックアップしていただければなと思います。
部会長	事務局で検討して、4個ほどのテーマを分けていただいたらと思います。 他に意見はありますか。 それでは進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。 閉会